

令和7年9月11日

保護者各位

鳥栖市立麓小学校  
校長 松尾 天

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要について（お知らせ）

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されましたので、その調査結果をもとに本校の結果について分析をしました。結果の概要についてお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部であること、また、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

1 令和7年度全国学力・学習状況調査について

令和7年4月17日、下記のような内容で全国一斉に小学校6年生を対象として実施されました。調査内容は、次のとおりです。

(1) 教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
調査問題では、①と②が一体的に問われています。
(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査紙
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して調査されています。

2 教科に関する調査結果から全国平均正答率と比較して見える本校児童の姿

(1) 国語について

- ・全体の平均正答率は、全国の平均正答率と同程度でした。
- ・本調査の対象となった「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っていました。「思考・判断・表現」は、全国の平均正答率と同程度でした。
- ・「知識及び技能」に関する内容で「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均正答率を大きく上回っていましたが、「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均正答率を大きく下回っていました。
- ・「知識及び技能」に関する内容で出題の趣旨「学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」では全国平均正答率を大きく上回っていました。
- ・「思考力、判断力、表現力等」に関する内容では出題の趣旨「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるかどうかをみる」については全国平均正答率を下回っていました。

(2) 算数について

- ・全体の平均正答率は、県の平均正答率は上回っていましたが、全国の平均正答率を下回っていました。
- ・本調査の対象となった「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに、県の平均正答率は上回っていましたが、全国平均を下回っていました。

- ・「知識・技能」に関する内容で、出題の趣旨「平行四辺形の性質を基にコンパスを用いて平行四辺形を作図するかどうかをみる」全国の平均正答率を上回っていました。
- ・「知識・技能」に関する内容で、出題の趣旨「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる」の正答率が県と全国平均正答率を下回っていました。
- ・「思考・判断・表現」に関する内容で、出題の趣旨『「10%の増量」の意味を理解し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる』の正答率が県平均を上回っていますが、全国平均正答率を大きく下回っていました。

### (3) 理科について

- ・全体の平均正答率は、全国の平均正答率と比較して大きく下回っていました。
- ・「思考・判断・表現」に関する内容で、出題の趣旨「赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し表現することができるかどうかをみる」は全国平均正答率を上回っていました。
- ・「知識・理解」に関する問題で、出題の趣旨「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身についているかどうかをみる」が県、全高平均正答率のどちらも大きく下回っていました。

### 3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査紙結果から見える本校児童の姿

- ・「毎日同じくらいの時刻に寝る」「毎日同じくらいの時刻に起きる」と答えた児童は全国平均よりも高かったのですが、「毎日朝食を食べる」については全国平均よりも低いです。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童が86.5%います。
- ・「友達関係に満足していますか」の質問に対して「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童が95.2%います。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり新たな考えに気づいたりすることができていますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童は79.8%だったことから、友達との関係は良好ですが、学び合いながらお互いを高めていこうというところまでは至っていない児童がいることがうかがえます。
- ・「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」では「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童が70.3%で県や全国平均より低い傾向がうかがえます。
- ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」の質問に対して「30分より少ない」が26.2%と最も多く、全くしないも7.1%の回答がありました。2番目に多い回答は「1時間以上、2時間より少ない」が19.0%でしたが、家庭学習の時間は県平均、全国平均より短いことがわかりました。
- ・学校でのPCやタブレットの使用頻度については、全国や県の平均回数より低いと答えている児童が多い反面、PCやタブレットなどのICT機器で「文章を作成する」「インターネットで情報を収集する」「分からないことがあったときにすぐ調べることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」などでは全国平均を上回っています。  
また「プレゼンテーションを作成することができる」「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」等も全国回答率と同程度でした。
- ・「国語、算数、理科の各教科を好きか」という質問では、各教科とも「当てはまる」「どち

らかといえ、当てはまる」と答えた児童が国語 47.4%、算数 46.4%、理科 63.1%と全国平均を下回る結果となっています。

#### 4 今後の改善策（児童の力をさらに伸ばすために）

- ・今後も「学び合い」の時間を積極的に取り入れることに加え、「振り返り」の時間を充実させていきます。
- ・国語科では「ことわざ」を生活や文章の中で使えるようにすることや、説明文など初めて読む文章をある程度の速さでしっかり読めるような活動に取り組みます。
- ・算数科では記述式の問題の正答率が低いため、絵や図、式や言葉を使いながら根拠を基に自分の考えを書く活動に取り組んでいきます。
- ・佐賀県教育委員会指定の「理数教育」の指導に力を入れます。特に算数科・理科が好きな児童が増えるように、学校行事や児童会活動で理数的な要素を含んだ内容を加えたり、校内掲示物の工夫をしたりします。また、授業で学んだことを普段の生活で活用できないか考えたり、自分の予想を立て解決したりしようとする児童を育むよう、児童の身近な物を学習の題材にしたり、家庭や地域での学習にも活用できるような情報の提供をしたりするなどの授業の工夫をします。
- ・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用し、授業改善を図るとともに、1時間の授業の流れをできる限り統一したり、電子黒板を活用して内容を視覚的に捉えさせたりするなど、授業のユニバーサルデザイン化に取り組みます。
- ・PC やタブレットについては活用の場面を広げることで、児童が自主的に学習に取り組んだり、友達と協働的に学んだりしようとする意欲を高めていきます。
- ・家庭学習については、家庭と連携して児童が自分の興味関心が高いものだけでなく苦手に感じた内容を中心に自主学習に取り組むことができるよう、家庭学習につながるような授業内容や課題の工夫・改善を図っていきます。

・家庭でも次のようなことに心がけてください。

##### 1 家庭での学習時間をつくってください。

【学習時間：10分×学年数字（「家庭学習の手引き」より）】

- ◎学習する時間や時間帯を決め、取りまわせることで学習習慣を身に付けさせましょう。
  - ◎読書にも進んで取りまさせましょう。
  - ◎スマートフォンを使う時間やテレビを見る時間、ゲームをする時間を決め、長時間にならないようにしましょう。
  - ◎ドリル学習やテスト直し等の復習だけでなく、予習にも取りまさせましょう。
  - ◎お子さんの興味関心が高い分野について話し合っ、調べ学習や体験学習にも取りまさせましょう。
- ##### 2 生活のリズムを整え、お子さんとのコミュニケーションの時間を大切にしてください。
- ◎今後も引き続き、早めに起床させ、必ず「朝食」を食べさせるようにしましょう。
  - ◎学校での出来事や話題になっているニュース、読んでいる本の内容について話し合ひましょう。
  - ◎お子さんががんばったことや良くできたことを、積極的にほめましょう。